

1

どういう性格・パーソナリティか

型	性格の側面	弱	強	指数
思索型	社交性：社交的で行動で解決するタイプ			59
	客観性：思慮深く冷静に判断するタイプ			38
活動型	身体性：活動的で機敏に動き回るタイプ			54
	気分性：気分で行動に変化があるタイプ			42
努力型	持続性：何事も粘り強くやり通すタイプ			42
	規則性：規則等を重視し行動するタイプ			58
積極型	競争性：競争心が強く積極的に動く傾向			65
	自尊心：自らのプライドを尊重する傾向			45
自制型	慎重性：慎重に見通しをつけて動く傾向			47
	自信：考えすぎず大胆に行動する傾向			58

■ この人の中心性格は「積極・競争性」および「努力・規則性」であるが、「活動・身体性」や「自制・慎重性」といった側面も本人は意識している。

● 「積極・競争性」及び「努力・規則性」の人のパーソナリティスケッチ
自分で意識はしていないが、競争的な環境を好んでいる。難しい問題であっても、あきらめずに頑張っていこうとする。また、自己顕示欲が強いためか、他者と競合する立場になると、実力以上の結果を出すこともある。周囲の人とも協調することができ、他人への思いやりもみられる。また、生活ぶりばかりと真面目で、几帳面なところもある。規則や秩序を大切にしている、社会通念に生きる常識家といえる。自分らしさを主張するより、社会がどう見ているかを気にするほうである。もともと自分の価値観や考え方の中で、理論的に正しいと思ったことを信じているが、そうしたことからか、意見や行動は手堅いものの、杓子定規になりがちである。突拍子もないアイデアや発想のできる要素はあるが、世間の評判などを気にすると常識的なところで落ち着いてしまう。しかし、世話好きなどもあり、自分が気に入って良いと思ったことは、思惑などを考えずに素直に実行する。善人ぶっていて、やや、他人に押し付けがましさとしてみえつつあることがある。

● もう一方の性格特性
自分もふくめて、環境をあるがままにとらえようとせず、主観的に判断することのほうがおおい。場の雰囲気や感情に左右されてしまい、相手に合わせて考えを変えてしまうところがある。また、表層的な言葉が多いためか、じっくり思案した発言が少ない。

< この 帳 票 の 見 方 >

自己分析シートでは、性格、社会性、意欲の側面から診断しています。
まず1ページ目では、あなたの中心性格を示し、次に日常的な生活場面での行動傾向を述べています。また、あなたの強み・弱みの把握ができるよう、具体的なアドバイスも記述されています。心理イメージに描かれている顔のイラストは、顔と人間の性格についてよく言われる言い回しをもとにあなたのモニターージュを作成しました。具体的な顔ではなく、心の顔を絵で写し出そうとしたものです。
2ページ目では、具体的な職場場面での対応力、自己評価と行動予測をグラフで示しています。対応力や行動予測は、1ページ目の診断結果より、あなたの行動傾向を予測したものです。
あなたが思う本当の自分とのズレを感じる部分もあるかと思いますが、この診断結果によって、自分を見つめ直し、自己理解を深める機会をとらえて下さい。さらなる向上を目指すには、まず自分自身を知ることが、大切です。自分を知り、さらなる向上を目指す手だてとして、ご活用ください。

2

一般的な場面での社会性

社会の側面	弱	強	指数
積極性・活発度			55
周囲との協調性			56
責任感・一貫性			55
自分への信頼度			63
指導・指示傾向			56
仲間との共感性			50
感情の安定度合			53
他者への従順性			62
自ら進んで実行			47
社会的自我確立			44

● 「自分への信頼度」について
自分への信頼度とは、自己の性格的側面や能力を把握し、それに沿った行動ができるか否かの自覚度を表しています。自分への信用度ともいえ、過小、過大評価ともに望ましくありません。この傾向が高い場合は、
▼一度、正しいと思ったことに固執しがちになり、突っ走ってしまう
▼自信があるために、出来ないことでも出来ると思ひこみ、目標の設定が大きすぎてしまう
といった行動が表に出やすくなります。自らが正しいと思っても周囲の意見を聞く余裕は必要です。まずは時間をかけてでも自己分析を慎重に行い、出来る事と出来ない事、得手不得手等を分別することが先決です。

● 「他者への従順性」について
他者への従順性とは、常識的行動や業務命令に対する素直さ、順応度を表します。集団の中での行動や共同作業を行うときの、指示、命令系統のスムーズさや統制力などに影響する部分です。この傾向が高い場合は、
▼比較的、目上の人や専門家の意見などに流されたり、同調しやすい。世間体を気にしたりする
▼自分の考えで行動するよりも、どちらかというと指示を待っていることが多い
という行動などが考えられます。集団の中では、周囲を見渡しながら物事の流れや状況を正しく理解し、それに沿った柔軟な姿勢での判断力や対応も必要ですが、時に自分らしさを発揮したり主張する事も大切です。

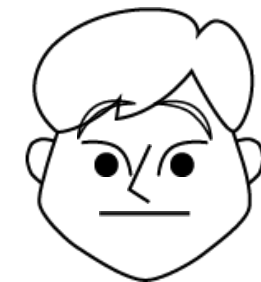
3

心理イメージ

■心理イメージをイラストであらわすと

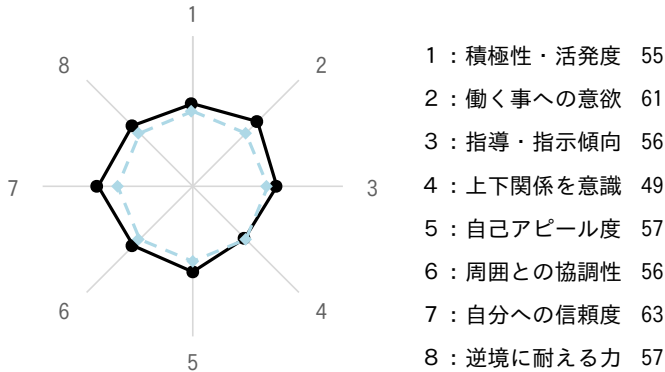
積極的な性格 → エラ顔
なんでも素直に受け入れる → 下がり眉
状況によって指示的行動 → 普通の眉
ヤル気にあふれている → 大きな瞳
新しいことをとりいれない → 目尻が上がっている
目立ちたがり屋ではない → 普通の鼻
人との関係にこだわらない → 普通の口

となり、右のような顔ができあがります。



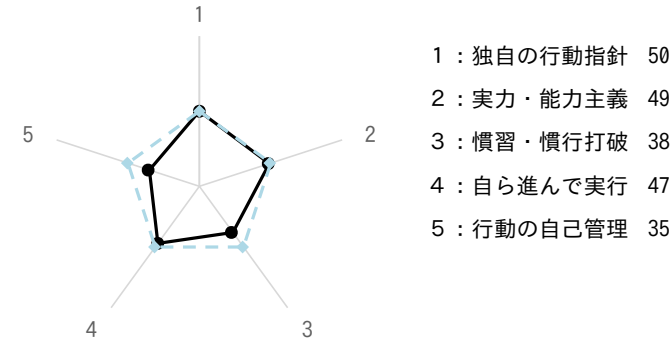
4 仕事場面での対応力

■何事にも積極的な姿勢で取り組む傾向



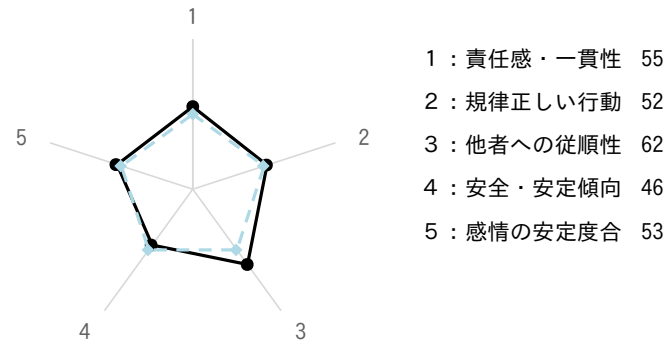
どんなときにも積極的に仕事に取り組もうとしている様子うかがえます。仕事に対する興味、役割認識などもできています。自信を持っておこなっていることと思われます。時間配分や目的達成への計画などにも気を配り、さらに実力を発揮していくよう、今後のますますの健闘を期待します。

■人に頼らず自分の力で成し遂げる傾向



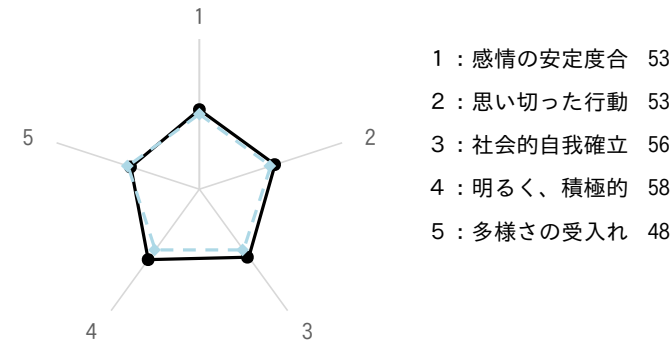
自分の力を信じて先へ進むよりも、周囲に合わせて穏やかに過ごしたい思いのほうが強いです。ただし、単なる仲良し集団で終わってしまうのではなく、自分らしさを発揮したいならば、気になることや興味のあることを追求していくべきです。ときには周囲の思惑やなれ合い的な態度に背を向けてみるのもいいでしょう。

■粘り強く最後までやろうとする傾向



責任感が強く、やると決めたことは最後まで面倒を見ろといった姿勢がうかがえます。周囲の出来事に振り回されることもなく、目的を見失うことはありません。精神面での強さを感じられますので、役割や業務に対する認識を強めていくことで、周囲からも頼りにされる存在となっていくことと思われます。

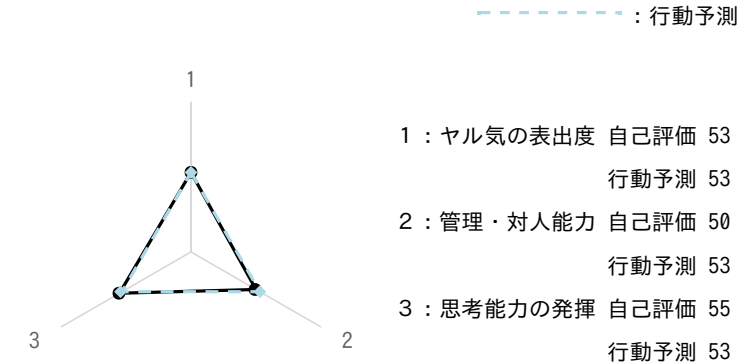
■強い意志を持ち前に進もうとする傾向



たとえトラブルが生じて、落ち着いて処理できるよう。一度決めたことは迷わずに突き進んでいこうとします。ときには軽はずみな行動があるかもしれませんが、そんなときでも事後の的確な対処をすることができるでしょう。周囲との協力関係を強化することで、より信頼される存在になれるでしょう。

5 自己評価

■自己評価と行動予測の比較



■ヤル気の出度について

自分にできることは、責任を持ってやり通そうとする姿勢が見られます。自分の能力を過信することなく、適度な緊張感を持って物事に取り組んでいるようです。ただし、少し難しいと思われるようなことには、無理な背伸びはしない様子うかがえます。人によっては、あなたのそんな姿勢に物足りなさを感じているかもしれません。自分に任されている仕事の内容や目的を正しく理解できると、期待される役割もわかってきます。もっと、本来のあなたの持つ良さを生かせるようになるでしょう。

■管理・対人能力について

自分の指導力や交渉力などを過信することなく、任されたことをきちんとこなしていく様子うかがえます。ただ、自分の限界を知っているさめた部分もあるようで、無理に人に合わせたり、周りをリードしたりするようなことはあまりしません。できる範囲のことは手を抜かないものの、物足りなさを感じられます。個人的な感情とは別に、仕事として割り切って打ち込むことも大切です。職務内容について理解を深めていくと、個人的な好き嫌いは前面に出てこなくなるでしょう。

■思考能力の発揮について

自分自身を客観的に見ている一面があり、必要以上に過信することはないのですが、反面、自分の限界を勝手にここだと決めてしまい、それ以上の力を出せなくしています。単にわかっているだけではなく、日頃から関係する分野に関する情報収集に努めるといいでしょう。専門知識や技術力などは、一朝一夕で身につくものではありません。小さいことの積み重ねが自信につながります。適当なところであきらめてしまうことなく、ひとつのことを突き詰めて考えてみると、そこから新しい突破口が見いだせます。